

MAXI/GSC が検出した 2026 年度前半の突発現象

○根来 均¹ 中島 基樹¹ 三原 建弘² 松岡 勝² 芹野 素子³ 宇宿 智哉⁴ 青江 宏樹⁴ 岩切 渉⁵ MAXI チーム⁶ (1.日大 2.理研 3.青学 4.愛媛大 5.千葉大)

全天X線監視装置 MAXI が前回の年会から本年会までに発見・検出したX線突発天体・現象について報告する。6月10日現在までに、MAXI が新たに発見した新天体はない。3月7日に Be/X線バルサー IGR J06074+2205 からの1型アウトバーストを検出した。MAXI は過去にも6度の同天体からのアウトバーストを検出しており、2023年からのデータを用いて連星周期を 80.1 ± 0.6 日と決定した (Nakajima+ The Astronomer's Telegram (ATel) #17714)。また、昨年度12月からアウトバーストを起こしているブラックホールX線連星 GS 1354-64 が3月12日頃にソフト状態に遷移したことを ATel に報告した (Negoro+ ATel #17724; GS 1354-64 の詳細な観測結果については、横山剛士他の講演参照)。3月24日には Be/X線バルサー XTE J1859+083 の11年ぶりのアウトバーストを検出した (Nakajima+ ATel #17730)。4月30日には、2012年から活動休止中であったX線バースター GS 0836-429/MX 0836-42 からと思われるX線バーストを MAXI では初検出した (Negoro+ ATel #17772)。5月21日と22日には、2つの Be/X線バルサー、それぞれ大マゼラン中の 1A 0535-66/1A 0538-55 と系内の LS V +44 17/RX J0440.9+4431 からのアウトバーストを検出した (Nakajima+ #17815, #17816)。

現在のところ、3つのガンマ線バーストを検出し、General Coordinates Network Circulars (GCN Circ) に速報した (260401A (Usuki+ GCN Circ 44176), 260510C (Iwakiri+ GCN Circ 44526), 260531A (Aoe+ GCN Circ 44746))。

講演では、上記のイベントを含め、年会までに MAXI が検出した突発現象などについて報告する。